

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



春は植樹の季節、黄土高原にも春が近づいています。蔚県代王城鎮でのマツの植樹風景（2018年4月撮影）

Contents

- 第29回総会のお知らせ P2
- オンラインシンポジウムのご案内 P2
- 大同緑化協力25年の軌跡 P3
- GENなんでも勉強会・GEN自然と親しむ会参加者募集 P4
- さまざまな緑化協力 エコ名刺の取り組み P6



GEN公式サイトリンク

2023.3

210

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第29回総会のお知らせ

第29回総会のお知らせです。今回も会場とオンラインを併用しての開催です。オンラインであればお住まいの場所に関係なく参加できますので、ぜひ参加ください。

3年にわたり中国を訪問できない状況が続いていますが、2023年度こそは中国の訪問が叶うことを願いつつ、張家口市蔚県での緑化協力を継続してま

いります。

また、国内では月に1回のペースでGENなんでも勉強会オンラインを開催しているほか、自然と親しむ会の開催、週一回のメルマガの配信など、取り組める活動を引続き行っていく予定です。

総会記念講演では、バードコンサルタントの大西敏一さんにお話しした

きます。大西敏一さんは、2018年より中国の野鳥調査にご参加いただいております、世界の鳥に精通しておられます。

【緑の地球ネットワーク第29回総会】
○日程：6月17日（土）13時30分～16時30分ごろ

○会場：大阪産業創造館5階研修室 A・B（大阪市中央区本町1-4-5 tel.06-6264-9911 大阪メトロ中央線・堺筋線「堺筋本町駅」1番出口より徒歩5分）

Zoomでもご参加いただけます。
※総会終了後、懇親会を予定しています。詳細は次号でお知らせします。



込む
③5月12日（金）14時までにイベント管理サイトPeatix (<https://gen-symposium2023.peatix.com/>)より申込み。
右のQRコードからも申込みいただけます。



オンライン・シンポジウム

環境に国境はない！ 相互理解と国際協力の出発点

緑化協力から学んだことを未来につなげたい

緑の地球ネットワークが中国で緑化活動を始めてから30年が過ぎました。初期にはさまざまな困難に直面しましたが、日本でも中国でも協力者に恵まれ、黄色い大地に緑を広げ、強固な相互理解を築いてきました。

今回、同じように中国で環境協力を積み上げてこられた二人の方をパネリストとしてお招きし、オンラインでシンポジウムを開催します。それぞれの体験を話し合い、その意義と今後の国際協力のあり方を探っていきます。みなさんの積極的な参加をお願いいたします。

○日時：2023年5月13日（土）13時30分～16時

○手段：ウェブ会議システムZoom

○パネリスト：染野憲治さん（早稲田大学現代中国研究所招聘研究員）、宮崎猛志さん（国際ボランティア学生協会（IVUSA）理事）、高見邦雄さん（GEN副代表）

○コーディネーター：原裕太さん（GEN世話人・東北大学助教）

○参加費：無料

○申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。

①5月9日（火）までに件名を「5月シンポジウム参加希望」とし、本文にお名前を記入してGENまで（gen@gen-tree.org）メールを送る

②5月9日（火）までにGENホームページ「参加する」ページ (<https://gen-tree.org/participate/>)より申

新しいパンフレットができました

GENの新しいパンフレットを作成しました。これまではGEN事務局で作成していましたが、今回はデザイナーに仕上げてもらい、見ごたえのあるものになりました。GENの30年にわたる活動と現在を伝えられる内容です。今号の会報と一緒に送りますのでぜひお読みください。読んでの感想をいただけるとうれしいです。

会報をメールでお送りしている方にはパンフレットを送ることができませんが、手に取って読んでみたい方には

郵送でお送りしますので、GENまで必要部数をお知らせください。

お知らせの方にGENの活動を紹介するときなどに役立てていただくと幸いです。



大同緑化協力25年の軌跡 変われば変わるものです

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で35回目です。（高見邦雄）

中国の人口が減少に転じ、少子高齢化が急速に進行するであろうことが、注目を集めています。ついにきたか、というのが私の印象です。

1992年から3度の秋をそれぞれ2か月強、私は一人で大同の農村を回りました。しなければならぬ仕事があるわけではなく、現地のことを少しでも深く知ろうと努めました。なじんだ農家を昼時に訪ねると、オンドルに上げられ、近くの男も集まって、酒宴が始まります。そのころの農村では、酒を飲むのも、客がくるのも昼時でした。

決まって話題になるのが、日本でも子どもを産むのに政府が干渉するの

か、ということです。政府の政策でもっとも不人気ののが一人っ子政策（農村では事実上、二人っ子政策）でした。日本の政府はもっと生んでほしいけど、そうはならない、と私が応えると、心底、不思議がります。子どもほどいいものはないのに、どうして？私の中国語能力ではその疑問に答えることはできませんでした。

農村の人たちが子どもを大切に思っているのを知って、私は農村にいくたびにその子どもを抱き上げたんですね。しぜん、子どものことが気になり、小学校付属果樹園に結びつきました。

カメラマンの橋本紘二さんは天鎮県の農村がお気に入りでした。深い浸食谷や酷い旱魃など風景も絵になったんですけど、それ以上に絵になる“人のよさ”があったと思います。

ツアー参加16回の石原務さんは、「天鎮県に行くなら参加するけど、そうでなかったら見送ります」ときっぱり。あそこの県の人の良さが魅力なのだそう。

天鎮県の山間の村で知り合った



天鎮県で出会った子供たち

古切手・外国コイン等 寄付のご報告

日頃、古切手や書き損じはがきの回収にご協力いただき、ありがとうございます。

2022年度にお送りいただいた未使用切手による寄付は34,355円になりました。また、書き損じはがきは19,672円相当の切手やミニレターに交換しました。これらは通信費として活用しました。古切手、外国コイン等は換金して27,585円になりました。

た。緑化資金として活用します。たくさんのご協力、どうもありがとうございました。

GENでは書き損じはがき（官製はがき）、古切手、外国コイン、未使用の切手やテレホンカード（新品）、商品券などを回収しています。使わずにご自宅で眠っている切手等がありましたらGENまでお送りください。

子どもたちに6人きょうだいがおり、その村でいちばん子どもが多いのは9人だとききました。貧しい村ほど子どもが多かったのです。

黄土丘陵や山間の高所の村は一人あたりの耕地が広いのです。土地が痩せ、水に恵まれないので、広くないとやっていけない。そういう村では家畜はニワトリやヒツジ、ヤギで、ウシ、ウマ、ロバなどの役畜はいません。広い畑を人力で耕し、水を担ぐには男手が必要です。そのために子どもの数が増える。

これがちょっと豊かな村になると、男の子へのこだわりは薄まります。女の子はよその村に嫁いでも、しょっちゅう帰ってきて、なにがしかの土産もってくる。男の子は嫁の両親にはよくしたとしても、この家には寄りつかない。女の子だって悪くないし、子どもがたくさんになると、学校の費用だけでもたいへんだ、となります。

日高六郎先生からこんな話をきいたことがあります。日本では戦前と戦後とで大きな断絶があったと思われるけど、実際は繋がっていることのほうが多い、高度成長期はたんなる連続だと思われるけど、じつは大きな断絶があったのではないかと。たしかに！

中国のこの間の変化、飛躍は、日本の高度成長を、その広さ、速さ、角度において、はるかに上回っています。このあといったいどうなるでしょう。すでに3年半、中国に行けないでいます。今年こそは行かないといけないと思う一方で、恐怖が湧いてきます。以前の体験、知識が現実を受け入れる妨げにならないか、それが怖い。

大同での緑化協力についてYouTubeで動画を配信しています。右のQRコードよりアクセスできますのでぜひご覧ください。



3月、4月のGENなんでも勉強会オンライン、GEN自然と親しむ会のご紹介です。オンライン勉強会は参加費無料ですので、ぜひお気軽にご参加ください。みなさまのご参加をお待ちしております。右のQRコードからお申込みいただけます。



参加者募集

GENなんでも勉強会オンライン 3月

失われゆく草原の生き物たち

～これまでとこれから：自然史と生態学の窓から～



草原の生態と人間生活のかかわりについて学んでみませんか。大窪久美子さんは信州大学農学部緑地生態学研究室で希少植物の保全や外来植物への対応などを研究しておられ、GENの緑化協力地である黄土高原にも専門家として足を運んでいただきました。

今回、日本と黄土高原の草原の植物をご紹介していただきながら、身近な雑草から学べる自然史の成り立ちなどをお話しいたします。

○日時：2023年3月22日（水）19時～20時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システムZoom

○講師：大窪久美子さん（信州大学農

学部 教授）
○参加費：無料
○申込み：以下のいずれかの方法でお申し込みください。
①3月19日までに件名を「3月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお

名前を記入してGENまで（gen@gen-tree.org）メールを送る

②3月19日までにGENホームページの「参加する」ページ（https://gen-tree.org/participate/）より申込む

③3月21日14時までにイベント管理サイトPeatixより申込む（https://gennandemo20.peatix.com）

参加者募集

GENなんでも勉強会オンライン 4月

京都西山ヘッポコ猟師のものとり話



稲垣文拓さん

昨年8月のGENなんでも勉強会では京大芦生研究林のシカ害について学びました。農業への獣による被害をニュースなどで目にする機会も多くあります。一方でジビエや狩猟女子などといった言葉がトレンドに上がるようになってきました。今回、会社勤めのかたわら狩猟免許を取得して京都で狩猟を続けておられる稲垣文拓さんに、狩猟の実際のようなものなのか、お話しいただきます。ぜひご参加ください。

○日時：2023年4月19日（水）19時～20時30分ごろ

○手段：ウェブ会議システムZoom

○講師：稲垣文拓さん（GEN会員）

○参加費：無料（定員100名）

○申込み：以下のいずれかの方法でお申し込みください。

①4月17日までに件名を「4月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してGENまで（gen@gen-tree.org）メールを送る

②4月17日までにGENホームページ「参加する」ページ（https://gen-tree.org/participate/）より申込む

③4月18日14時までにイベント管理サイトPeatix（https://gennandemo21.peatix.com/）より申込む



所までお知らせください。GENホームページの「参加する」ページ https://gen-tree.org/participate からもお申込みできます。

※新型コロナウイルスの感染防止対策をしながらおこないますが、状況により変更・中止の可能性がります。

参加者募集

GEN自然と親しむ会

前中代表と歩く野の道シリーズ⑩

春の大仙公園を歩く

前中代表と歩く野の道シリーズは、歩きやすく平坦な道を歩き、おもに植物の自然観察を楽しむ会です。

今回は堺市にある大仙公園を訪れます。大仙公園は、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳の間に広がる緑の歴史にかこまれた公園です。

4月の大仙公園で、春の自然観察を楽しみませんか。園内にある日本庭園も訪れる予定です。

○日時：2023年4月15日（土）10時～15時ごろ※小雨決行

○場所：大仙公園（堺市堺区東上野芝町1-4-3）

○案内：前中久行さん（GEN代表）

○集合：JR阪和線 百舌鳥駅西改札

○参加費：700円（保険料を含む、別途、日本庭園の入園料（大人200円）がかかります）

○定員：20名（先着順）

○持ち物：歩きやすい服装と靴、帽子、弁当、飲み物、敷物

○申込み：4月12日（水）までにお名前、生年月日、連絡先をGEN事務

報告

木質バイオマスのあり方を考える

宮本 敏幸さん（GEN世話人）

1月19日、GENなんでも勉強会オンライン「木質バイオマスことはじめ」をおこない、21名が参加しました。講演のようすはYouTubeで配信しているほか、GEN会員はホームページの「会員さま限定ページ」で質疑応答部分までご覧いただけます。

2021年1月、欧州委員会から委託を受けた合同調査センター（JRC）は、「EUのエネルギー生産における森林バイオマスの使用」という公式調査レポートを公表した。それは「森林バイオマスは、カーボンニュートラルではない」という内容を含んだ公式文書であり、私はこれを1年遅れで知ることとなった。レポートでは、バイオマスとして可なのは、拾った落ち葉を燃やすくらいなもの、という極めて厳しいコメントがついていた。

今回、泊先生の講演を聞いていて、先生は「バイオマスはカーボンニュートラルではない」と考えたら、ということ、本当はレポートにある14項目全体を見なければならないが、そのうちの1項目を取り上げたい。「バイオ

マスは燃焼の際石炭以上のCO₂を排出、できるだけ高い利用効率で」とある。この項目は、泊先生の言われていた、「バイオマス発電・地産地消」という話である。泊先生も挙げておられた栃木県で製材大手の「トーセン」は、製材時に出る木くずは東海地方にある製紙工場に安く供給していたが、運送費がかさみ、ほとんど利益がでていなかった。しかし、木くずを燃料として発電し、売電すると、収入が2倍になったそうだ。

国は「15年度から間伐材など、未利用材を使った出力2000kW未満のバイオマス発電で得た電気の買い取り量価格を1kW時当たり通常より8円高い40円とした」とある。トーセンではビニールハウス内に熱を送り込み、南国の



果実、マンゴーを栽培している。また、次のような指摘もあった。「バイオマス発電の最大の課題は、原料の確保だ。材料は輸入が7割を占めており、そこから得る木くずも、市況による価格変動をまぬかれない」としている。熊崎実・筑波大学名誉教授は「バイオマス発電は、森林整備と並行して考えないことには実現できない」と語っている。

私もこの発言には、その土地に愛着を持つ人の生活が込められていると思わざるを得ない。今、大阪に住む、街中のコンクリートとアスファルトの中で、夏はヒートアイランド現象と戦わねばならない身にとっては、全く異質の世界だが、一つ一つが身に近い生活の習わしとなるだろう。

報告

人と自然の距離は近い？ 遠い？

山崎 鈴果さん（関西大学2回生）

2月25日、GENなんでも勉強会オンライン「森との新しい距離はどんな感じ？日本について考える：ヨーロッパ発の大放談」をおこない、23名が参加しました。講演のようすはYouTubeで3月31日14時まで配信しているほか、GEN会員の方はホームページの「会員さま限定ページ」でご覧いただけます。

はじめてGENなんでも勉強会に参加させていただきました。森との距離は、どんなものであるかを考えるきっかけをもらい、自分自身と森の距離について考えました。

兵庫県西宮市で育った私にとって、「森」に触れる機会は非常に少ないと感じています。身近にある自然は何か考えたとき、近くの公園の草木や花が浮かびます。これらは人の手によって作られた飾りであって、山や森などの原生自然とは異なります。

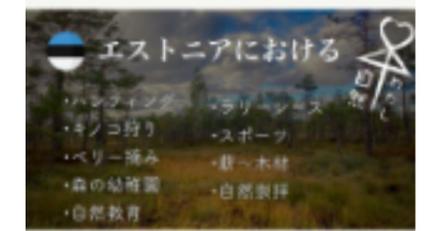
他の参加者のみなさんは生まれた時から森が近くにあったなど、自然との距離は近いとおっしゃっていた方も多く、私は自然との物理的距離はとて

遠いように感じます。しかし、森や自然は私にとって一種の癒しを与えてくれる存在です。樹木が呼吸をするような森の音を聞き、森の中へ差し込む日の光を浴びる時間は、都会の生活の中で感じるストレスや悩みを吹き飛ばしてくれるようであり、普段の生活とは違う時間の流れを感じ、心を浄化させてくれます。普段自然と関わらない生活をしているからこそ、森へ訪れたときの非日常感や現実を忘れさせてくれる森の存在はとて貴重で、ありがたいものだと思います。

昔と比べると物理的な自然との距離は離れつつあると感じます。自然離れの原因は、都市化が進んだことに加え

て、森に潜む虫が苦手な人が多いのも原因だと思えます。インターネットやスマホが当たり前になるなかで、小さい子供も外で遊ばず、家でゲームやYouTubeを見て過ごすなど自然や虫に触れる機会が幼い頃から少ないことが原因だと考えます。私は、田舎の祖父の家で幼いころから虫に触れる機会があったので、苦手ではないですが、私の周りを見ると虫に触れない人が多いと感じます。

幼い頃から自然に触れ、親しむ機会が多いと大人になっても森や自然の豊かさに魅かれ、生活するうえで欠かせないものであることの大切さに気づくことができるのではないかと感じました。



～さまざまな緑化協力～
エコ名刺の取り組み



安武 健一さん (P&Dビジネス 代表取締役)

GENの活動は個人の会員はもちろん、企業活動を通じても支えていただいています。福岡にあるP&Dビジネスは、2009年から毎年エコ名刺を通じて売り上げの一部をGENに寄付する取り組みを続けてくださっています。GENの活動への協力にご興味のある企業の方はぜひお気軽にご相談ください。

「えー、電報1通で木を1本植える!?!」その記事を見つけた時は心底驚きました。2008年当時、CSR(企業の社会的責任)という言葉が世の中で広く認知されるようになり、弊社でも何か取組みができなにか模索している時期でした。「電報1通で木を1本植えるなんて、それでは採算が合わないのでは…」そう思いながらも、そのからくりを調べてみると、電報を取扱う会社がモンゴルで植樹活動を行っているNGOと提携し、毎年寄付を行うことで仕組みが成り立っていることが分かりました。

「なるほど、これならうちの会社でも取組める。紙を消費する印刷会社の取組みとして、紙の原料でもあるパルプ、つまり木を自然に返す活動というのはCSRとして最適。どの会社でも必ず利用する名刺、その名刺1箱が1本の植樹に繋がる活動というのはインパクトもありいいのでは」そう思ったってからは、同じような活

動を行っている印刷会社が全国にないことを確認し、早速そのNGOに相談をしてみました。しかしながら、詳細は記憶していませんが話がまとまらず、自力で他の植樹を行っている団体を探すことになりました。

そこで「緑の地球ネットワーク」に出会い、大阪の事務所に訪問させていただいたのが2008年だと記憶しています。当時事務局で対応いただいたのは高見さんと東川さんでした。お二人とも私の相談に快く応じていただき、誕生したのが「1箱の名刺が1本の木になる【ECO名刺】」でした。紙を消費する印刷会社として、紙の原料であるパルプ、つまり木を自然に返すことで企業の社会的責任を果たすというのは、非常にわかりやすいコンセプトであり、同時にECO表記を記載した名刺を使う会社様にとってもCSR活動としてPRできるツールであるため両社にとって価値のあるツールと言えます。

それからは当時の取引先はもとより、様々な会社にアプローチしてこのECO名刺を採用していただきました。また当時、テレビや新聞でもこの取組みを取り上げていただき、いろんな方々に【ECO名刺】を知っていただけるようになりました。

その結果、これまでご協力いただいた会社は1000社近くに及び、2022年末で約25000本の植樹に繋がっています。これもすべてこの活動に賛同いただいた多くの企業様や、毎年植樹活動をしていただいているGENあってのおかげと心から感謝しています。現在の潮流であるSDGsにもマッチするものであり、今後も1本でも多くの植樹に繋がるように、引き続き頑張っていきたいと思えます。



ECO名刺の取組みが新聞で取り上げられました

GENで活動中の
インターン生ご紹介

2~3月の期間、インターン生を受け入れています。今期は事務所で対面の活動にも積極的に取り組んでいます。

山崎 鈴果さん



はじめまして。インターン生としてお世話になっております、関西大学政策創造学部2回生の山崎鈴果です。

前回までのインターンはオンラインのみの活動だったと聞き、対面での活

動ができることがとても嬉しく、有難く感じています。

主な活動は、InstagramやTwitter、noteの投稿です。また、新たな活動としてインターン生募集サイトを作成したいと考えています。GENの活動をもっと多くの人に知ってもらうために、自分にできることを考え貢献したいと思っています。

このインターンでは、大学では学べない体験ができるとともに、環境や自然についてさらに深く考える機会を与えてくれました。様々な面で新たな学びを与えてくれるGENでのインターンも残り半分ですが、今後もよろしくお祈りします。

GENのSNSで
繋がろう

GENではFacebookをはじめ、twitter、Instagram、noteなどSNSを使って発信しています。会報は隔月1回のお届けですが、SNSを通じてより早く情報をお届けすることができま。3月中はインターン生が積極的に投稿していますので、フォローいただけると嬉しいです。

また、SNSで取り上げてほしいテーマ等あればぜひお寄せください。

GENの各SNSは会報表紙にあるQRコードよりお入りいただけます。

黄土高原紀行<13>

四、懸空寺と応県木塔 (2)

谷口 義介 (GEN会員)

昼食後、バスは西行して応県に向かう。そこに遼代(916~1125)以来の仏宮寺という寺院があり、壮大な木塔をもって知られるので、応県木塔の名で通っている。正式には、仏宮寺釈迦塔という。

門の前方は4年まえに来たときは違い、明清時代の古街ふうを整備され、各戸に商店が入っている。この再開発は、地方政府の観光政策によるものだろう。以前は田舎町らしく雑然としていて、山門まえにはシートを敷いて古銭や陶磁器などを並べて売っていた。あんがい掘り出し物があったかもしれない。

境内に入ると、東に鐘楼、西に鼓楼、中央に南面して朱色の八角塔、その裏側に大雄宝殿と左右の僧房。かつては200人余の僧侶がいて、今よりもっと広大な伽藍を誇っていたらしい。

上・下2段あわせて高さ4メートルの台基の上に、頂上の相輪までふくめ67.31メートルの塔が立つ。西安の大雁塔(レンガ造り、64メートル)より高いわけだ。外観は6層だが、じっさいは5層(明層)と4層(暗層)からなり、実質的には9階建てである(写真)。明層というのはオープン・フラットで、そこに仏像が安置されており、外からは見えない暗層は多くの柱を立てて塔の重量に耐えられる役目を果たしている。台基と軒瓦、鉄の相輪以外は、すべて木製。鉄釘をいっさい使わず、斗拱(ますぐみ)と梁(うつばり)を巧みに組み合わせた構造で、とくに斗拱には工夫を凝らしているという。その仕方は54種類とか。

第1層に高さ11メートルの釈迦如来像が立つ。木製ではなく塑像(粘土製)だが、見事な造り。壁面にも如来像が描かれており、その頭上の飛天の姿も美しい。

ギンギンと音をさせながら、上階まで登ってゆく。

創建は遼代の1056年。つまり、中国

で現存最古・最大の木造建築ということになる。元朝の1305年に起きた大同地震や、同じく1333~68年の間の応県大地震にも、また2度の大洪水や戦火にも耐えて、立ちつづけた。その度ごとに、8回の修復が応県の民の浄財によってなされたという。

昨日見学した大同の上・下華嚴寺もそうだが、遼代にはすぐれた木造建築が多いようだ。

そもそも遼は、太祖耶律阿保機(916~926年在位)による建国以後、仏教を積極的に採り入れて各地に寺院や塔を建立。このころ廃れていた雲岡石窟も修復している。そして最盛期をむかえた第6代聖宗(982~1031年在位)のあと、第7代興宗のとき下華嚴寺を、第8代道宗の清寧年間(1055~64)に仏宮寺と上華嚴寺をつぎつぎ造営している。それを可能にしたのは、国力の充実、篤い仏教信仰もさることながら、高度な建築技術と豊富な木材資源にあったとみてよいだろう。

仏宮寺木塔の総重量は7万4000トンに及び、使用した木材は約3000立方メートルで、おそらく原材は1万立方メートル前後。1977年にC14年代測定法で調べたところ、樹齢1000年ほどの木を柱に使用している、と判明した(上田篤編『五重塔はなぜ倒れないか』〈新潮選書〉、1996年、49ページ)。



ジ)。カラマツやニレ材が多く、おそらく近くで伐られたものだろう。このころ黄土高原に、かなりの規模の樹林が広がっていたことはたしかなようだ。



谷口義介さんの連載を
オンラインで

GEN会報に掲載された谷口義介先生執筆の『黄土高原史話』は2001年5月からスタートし、100回まで続いています。「オンラインで読みたい!」という声を受け、第1回目からnoteでお読みいただけるようになりました。まとめて読みたい方におすすめです。QRコードを読み取っていただくか、以下のURLよりご覧いただけます。

<https://note.com/genmerumaga/m/m0b34cblb6a55>



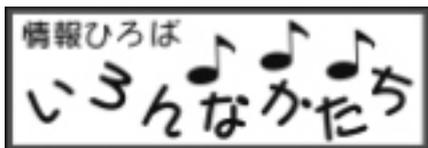
万年中国語学習者のつづやき

今号の「大同緑化協力25年の軌跡」でも触れていますが、日本同様、中国でも少子化が進んでいますね。なかなか結婚しない若者も増えていて、焦った親世代が子ども抜きで公園などでお見合いをする、などという話もよく耳にします。

そんななか、中国で大ヒットした映画と同じ名前のお見合い番組、「非誠勿擾」が大人気のこと。直訳すると「誠実でない方はお

断り」となるでしょうか。参加者の本気加減がうかがえる素敵な番組名だと思いませんか。名前もさることながら、内容についても日中の結婚観の違いについて考えさせられる学びの多いものでした。YouTubeで過去の放送を見ることが出来ますので、気になる方はリスニングの勉強を兼ねて見てみてください。





第31回
自然観察インストラクター
養成講座

地域で身近な自然観察会をひらくためのインストラクターを養成する講座です。修了すると大阪自然環境保全協会に自然観察インストラクターとして登録できます。

- 日程：2023年4月9日（日）～12月2日（土）全28回
- 講師：石井実氏（大阪府立大学名誉教授）、夏原由博氏（名古屋大学名誉教授・大阪自然環境保全協会会長）
- 受講資格：18歳以上、身近な自然を守るために何かやりたいと考えている方、原則すべてのプログラムに参加できる方。
- 受講料：29,000円（教材費、保険料を含む、宿泊講座の宿泊費・食費等は別途必要）
- 定員：15名（先着順）
- 会場：室内講座は大阪市立天王寺区民センターなど、水曜日の19時～21時、野外講座は公園等で9時30分～16時。
- 申込み方法：はがきまたはe-mailに、氏名（フリガナ）、性別、年齢、住所、電話番号を記入し、下記まで。
- 主催・問合せ・申込み：（公社）

* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

大阪自然環境保全協会 自然観察インストラクター養成講座（〒530-0014 大阪市北区天神橋1-9-13ハイム天神橋202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: inst@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp）

トルコ・シリア地震
「被災地のいま」報告会

2月6日に発生したトルコ南東部・シリア北部地震をうけて、阪神淡路大震災をきっかけに発足し、海外で被災地支援を行うCODE海外災害援助市民センターのスタッフが現地スタッフを派遣しました。

今回の報告会はトルコの現地から中継でつなぎ、被災状況や課題、今後の取り組みについてCODE事務局長の吉椿雅道さんと現地NGO関係者（予定）が報告します。

- 日時：3月24日（金）18時～20時
- 参加費：無料
- 使用言語：日本語（現地の方が話をされる場合は日本語通訳あり）
- 会場：近畿ろうきん肥後橋ビル12階メインホール（大阪市西区江戸堀1-12-1 大阪メトロ四つ橋線肥後橋駅10番出口すぐ）定員50名
- オンライン会場：ウェブ会議システムZoom 定員500名
- 主催：CODE海外災害援助市民センタ

- 共催：近畿労働金庫・関西NGO協議会
- 申込み・問合せ：(https://forms.gle/JEfUfMgSdufWHmX98) の申込フォームよりお申込みください。または関西NGO協議会（〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30大阪聖パウロ教会4階 tel. 06-6377-5144 対応は火曜日～金曜日の10時～18時）へご連絡ください。

土佐文旦
いかがですか

土佐の春の香りをお楽しみください。

- B 2L 5kg（10-11玉） 3,700円
 - C L 5kg（12-13玉） 3,200円
- 倍量の10kg箱もあります。

- 出荷：2月25日より
- 送料：関東・中四国1,000円、関東・九州1,100円、北海道1,500円（10kg以上20kgまで+300円）

★ご注文は下記まで
【田中農園】
〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 tel/fax. 0887-29-2500 e-mail: tanakan3@crocons.ocn.ne.jp
※売り上げの一部を寄付していただいていますので、ご注文時にひとこと「GENの紹介」と添えてください。

会費・購読料・寄付・物品・ボランティアなど協力者のお名前（'23.1.1～'23.2.28、50音順、敬称略）